認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

熊本地震 被災者支援

活動報告書

2016 年 4 月 15 日～2019 年 3 月 31 日までの報告

上益城郡御船町

御船町は熊本市から16ｋｍほど東南に位置する町。人口は約１万８千人、面積約99 ㎢、10の小学校区で構成。高齢化率30.9％で、山間部では、60～70％を越す集落もあります。

日本で最初に肉食恐竜の化石が発見された町でもあり、「恐竜博物館」には年間17万人もの観光客が訪れます。

山間部では米や野菜づくりなどの農家が多い一方、小中高大学などの教育機関が充実しているため、熊本市のベッドタウンとして、若い世代も多く住んでいます。

- **震度６強の強い揺れを観測**
- **町内40カ所以上の避難所にピーク時で約6,000人の町民が避難**
- **避難指示108世帯（308名）**

＜人的被害／H31.２月13日現在＞
死者10名（うち関連死９名）
＜住家被害／H31.２月13日現在＞
全壊444世帯、大規模半壊1,017世帯、半壊2,397世帯、
一部損壊2,178世帯
＜仮設住宅等の入居状況／H31.３月31日現在＞
建設型仮設住宅（21箇所）228戸507名
借上型仮設住宅＊　130戸
（うち、御船町内60戸188名　町外70戸146名）

イメージキャラクター
ふねまるくん

＊借上型仮設住宅：
民間賃貸住宅を行政が借り上げ被災者に無償で供与される住宅で、災害救助法に基づく応急仮設住宅の一種。一般の住宅を仮設住宅とみなすことからみなし仮設とも呼ばれる。

タイムライン

2016 年

4/15　スタッフ２名が現地入り（福岡経由で大津町へ）
4/16　大津町のホテルで震度６強の被災、一旦名古屋へ帰還
4/16～17　名古屋にて街頭募金活動
4/20　スタッフ２名とボランティア１名が再び現地入り
4/21　大分県竹田市、熊本県西原村、御船町を経由して熊本市西区「光楽寺」へ到着（5 月 1 日まで滞在）
4/23　西原村にて災害ボランティアセンター運営支援・JVOAD 火の国会議（以降毎日開催）・「RSY 避難所チーム」結成・御船町にて活動開始、街頭募金（名古屋）
4/23～24　名古屋にて街頭募金活動
4/25　御船町長・総務課・福祉課と面談、福祉課「救護班」のミーティング参加、各避難所にて足湯ボランティア開始
4/29　御船町災害ボランティアセンター開設、RSY 避難所チームを『ニーズ班・福祉チーム』として位置づけ
4/29～5/1　名古屋にて街頭募金活動
5/1　田代東部公民館にて「ミニ昼食会」、御船中学校にて「子どもの遊び場」、小坂小避難所にて「足湯ボランティア」開催、福祉避難所の環境改善実施
5/2～4 玉虫住宅南公民館にて「ミニ昼食会」、御船小中学校避難所などで「子どもの遊び場」、「足湯ボランティア」開催、光楽寺にて「炊き出し」開催
5/3～5　名古屋にて街頭募金活動
5/6　小坂小避難所にて日本災害復興学会「これからの生活再建を考えるミニ相談会」実施
5/8　JVOAD 熊本市内 180 箇所の避難所を 21 箇所に集約、熊本市総合体育館での受入支援、御船町にて「母の日プロジェクト」実施
5/9　地元ボランティア団体らと御船中で「サロン活動」開始
5/14～15　玉虫住宅南公民館、田代東部公民館にて、日本災害復興学会「これからの生活再建を考えるミニ相談会」実施
5/16　田代東部公民館にて「ミニ昼食会」の開催
5/21　熊本市市民活動支援センター・あいぽーとにて「足湯講習会」実施
5/21～22　青雲市場にて「炊き出しバイキング＆カフェ」開催、ふれあい広場にて「LUSH ハンドマッサージ」開催（以降各避難所で毎週末開催）
5/23　御船中にて「手洗いチェック・布団干し」実施
5/29　あいぽーとにて「熊本地震災害支援説明会」開催（以降、地元ボランティアの足湯ボランティア、サロン活動などをサポート）
6/1　南田代集会所にて日本災害復興学会「これからの生活再建を考えるミニ相談会」実施
6/6～10　御船町スポーツセンターへの避難所集約受入支援、「雑巾づくりの会」開催
6/8　熊本市南区火の君文化センターにて「布団干しプロジェクト」開催
6/8　名古屋にて街頭募金活動
6/14～15　スポーツセンター、南田代公民館にて「炊き出し交流会」開催
6/16～17　スポーツセンター、南田代集会所、福祉避難所にて「胡弓演奏会」開催
6/18　応急仮設住宅入居者説明会（第一次募集）にて「仮設の住まい方」説明
6/23　大口町倉庫にて「あったか味噌汁プロジェクト」パック化作業（初回）
6/26　スポーツセンターにて「足湯ボランティア」実施
6/27　高木・木倉・旧七滝中仮設住宅へ「あったか味噌汁プロジェクト」のお椀＆箸セットお届けスタート
6/28　スポーツセンター、玉虫住宅南公民館にて「サロン活動」実施
7/5　RSY 御船事務所「かたらんな交流館」オープン
7/7　大口町倉庫にて「あったか味噌汁プロジェクト」パック化作業

7/14　応急仮設住宅入居者説明会（第二次募集／七滝）にて「仮設の住まい方」説明、スポーツセンターメモリアルイベント参加
7/19　スポーツセンターにて「お抹茶＆手作り教室」開催（災害ボランティアネット九州支部「てらもん」と合同）
7/21　応急仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（ふれあい第 1）
7/23　「くまもと災害ボランティアネットワーク設立実行委員会」シンポジウム参加
7/24　足湯（玉虫住宅南組団地）実施。12 名が参加（神戸大学足湯隊と連携）
7/29　スポーツセンターにて「お抹茶＆手作り教室」開催（災害ボランティアネット九州支部「てらもん」と連携）
7/29　大口町倉庫にて「あったか味噌汁プロジェクト」パック化作業
8/3～4　大口町倉庫にて「あったか味噌汁プロジェクト」パック化作業
8/4　町主催「御船町第 1 回被災者支援担当者会議」参加
8/8～10　旧七滝・高木談話室にて「穴水・御船交流会」開催。総勢約 20 名参加。陣・木倉仮設住宅、商店街、スポーツセンターなどで手作り手拭タオル「ホットちゃん」を配布。御船町社協にて「穴水＆田代・木倉地区社協交流勉強会」開催。24 名参加（穴水町社協、穴水町ボランティア連絡協議会と連携）
8/11　旧七滝仮設談話室にて「RSY カフェ」開催。4 名参加（「はり灸レンジャー」と連携）
8/13　かたらんな交流館にて「陶器市＆RSY カフェ」開催。6 名参加
8/14　スポーツセンター主催「熊本地震メモリアルイベント」参加
8/19　障がい者福祉施設「第二明星学園田代西部センター」にて「音楽会」開催（「NPO 法人夢のはな奏であい」と連携）。50 名参加
8/19～21　RSY 熊本地震夏祭り応援交流ボランティアバスを運行。スポーツセンターにて「真夏の夏祭り」支援、南田代公民館にて「住民夏祭り交流会」開催、町内観光の後名古屋へ出発。祭りには総勢約 400 名が参加
8/20　仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（ふれあい第 2、高木第 2、下高野）
8/26～27　大口町倉庫にて「うるうるパック」パック化作業
8/27　かたらんな交流館にて「陶器市＆RSY カフェ」開催。約 20 名参加
9/1　仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（東小坂、田代東部、七滝、玉虫）
9/6　仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（甘木）
9/8　旧七滝中談話室にて「福島・御船交流会」開催（桜の聖母短期大学と合同）8 名参加
9/10　大口町倉庫にて「あったか味噌汁プロジェクト」パック化作業
9/9～12 スポーツセンター、高木・旧七滝・ボランティアセンターにて「住宅再建に関する相談会」開催（(株) サイドサポートサービス「おうちの相談屋本舗」と合同）。総勢約 20 名参加
9/16　町主催「御船町第 2 回被災者支援担当者会議」参加、仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（滝川）
9/17　かたらんな交流館にて「陶器市＆RSY カフェ」開催。約 60 名が参加
9/20　大口町倉庫にて「うるうるパック」パック化作業
9/22　仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（南木倉）
9/25　御船町復興まつり「感動祭」準備支援（トヨタボランティアセンターと連携）
9/27　木倉公民館にて「陶器市＆RSY カフェ」開催。約 50 名参加
9/28　ふれあい第 1・2 談話室にて「あったか味噌汁プロジェクト昼食会」開催。約 30 名参加。町主催「第 1 回応急仮設住宅自治会づくり会議」参加。
10/2　ふれあい第 1・2 談話室にて「なごやカフェ」開催。（名古屋学院大学と連携）。約 20 名参加、御船町復興まつり「感動祭」準備支援（TOYOYA ボランティアセンターと連携）
10/4　仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（空室分）
10/8　高木仮設にて「自治会づくり住民会議」に参加
10/10　大口町倉庫にて「うるうるパック」パック化作業

10/11　御船町社協「地域支えあいセンター開所式」参加

10/13　町主催「御船町第 3 回被災者支援担当者会議」「第 2 回応急仮設住宅自治会づくり会議」参加、応急仮設入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（西木倉）

10/15～16　御船町復興まつり「感動祭」準備支援（大分大学学生有志と連携）

10/17　町主催「復興計画住民座談会」参加（田代東部公民館）

10/19　スポーツセンター、南田代公民館にて「炊き出し交流会」開催。260 食提供（災害ボランティアネットと連携）

10/21　町主催「第 3 回応急仮設住宅自治会づくり会議」参加

10/22～24　今城、小坂、ふれあい第 1・2、高木、南木倉仮設にて「足湯&RSY カフェ開催」40 名参加。

10/23　大口町倉庫にて「うるうるパック」パック化作業

10/26　ふれあい第 1 仮設にて「自治会づくり住民会議」に参加

10/28　町主催「御船町第 4 回被災者支援担当者会議」、ふれあい第 2 仮設にて「自治会づくり住民会議」に参加

10/29　木倉校区見守りネットワーク推進会議「災害後の生活支援についての勉強会」講演・WS の企画運営

10/30　小坂・旧七滝仮設にて「下駄箱づくり&RSY カフェ」を開催（Project 九州と連携）

11/16　仮設住宅入居者説明会にて「仮設の住まい方」説明（落合）

11/17　町主催「御船町第 4 回被災者支援担当者会議」参加

11/21　小坂仮設にて「自治会づくり住民会議」に参加

12/2　震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）「復興寺子屋 in 御船・仮設での自治会づくり」開催

12/5　高木地区、小坂仮設にて「アーユス仏教国際協力ネットワーク」との交流会サポート

12/15　下高野第 2 仮設にて「自治会づくり住民会議」に参加

12/23　小坂仮設にて「陶器市」開催。約 50 名参加

12/24　今城仮設にて「陶器市」開催。約 30 名参加

12/25　南木倉仮設・西木倉仮設にて「陶器市」開催。約 50 名参加

12/26　町主催「御船町第 5 回被災者支援担当者会議」参加

2017 年　1/19　南田代・高木地区、今城・落合仮設にて「真宗大谷派ボランティア研修・餅つき&お念珠づくり交流会」開催。約 80 名参加。

1/27　震つな主催で「情報交換会・みなし仮設への支援を考える」を開催

2/22　震つな主催で「復興寺子屋 in 御船・親子支援つながりカフェ」を開催

3/23　震つな主催で「情報交換会・みなし仮設への支援を考える」を開催

2018 年　6/24　旧御船町立七滝小学校にて七滝復興祭の子ども防災コーナーを担当

8/18～19　御船町自然体験&住民交流企画

8/26　復興古閑の迫寅舞 150 周年記念祭の子ども防災コーナーを担当

10/15　七ヶ浜町と御船町の災害時相互支援に関する協定　締結式

2019 年　3/20～22　御船町住民交流企画

2016 年度　支援活動

●避難所支援　RSY 避難所チーム（避難所環境整備）

命と尊厳を守れる最低限の避難所環境を整えることを目的に、御船町や熊本市からの要請を受け「避難所チーム」を結成しました。RSY と繋がりのある看護や福祉の専門職の皆さんに協力頂き、トイレ・寝床・食事の改善、福祉避難所(スペース)の整備を行いました。特に避難所統合の際には、乳幼児室、管理調理場、女性用物干しスペース、学習スペース、食堂などの機能の必要性も提案し、受け入れを手伝いました。

足湯ボランティア

どの災害でも直後から復興期まで息長く喜ばれる足湯ボランティア。御船町や熊本市内の避難所で実施しました。神戸大学、名古屋学院大学の学生や、東日本大震災で生まれた「どこでも足湯隊」の皆さんが、被災された方々の足と心を温め、笑顔や涙、喜びの声を引き出しています。この活動は、地元大分大学やボランティア・NPO 団体らに引き継がれ、継続されています。

サロン活動支援

「日中することがない」「避難所に来てから体の動きが悪くなった」というお年寄りの声を聞き、震災前から地元でサロンを開催していたボランティアの皆さんと一緒に活動を行いました。この活動は避難所が統合されるまで、週に 2 回～3 回のペースで続け、被災者同士、被災者とボランティアを繋ぐ交流の場・拠り所となりました。LUSH ジャパンのハンドマッサージや音つむぎネットの音楽会とのコラボレーションは喜ばれました。

子ども支援

学校休校や激しい揺れ、避難所生活のストレスを抱えた子ども達のために、遊び場を提供しました。地元の若者で結成された「笑顔の熊本会」や三重県からの個人ボランティアの皆さんらが、けん玉やボール遊びなどの楽しい企画を開催しました。仲良くなるにつれて「抱っこ」や「おんぶ」をせがむ姿も見られ、子どもの表情も明るくなってきました。この活動は、日本イスラエド・サポート・プログラム（JISP）の皆さんに引継ぎました。

避難所の自主運営・役割づくり・閉鎖サポート

6月上旬、御船町スポーツセンターへの避難所統合を機に、町からの依頼により、熊本YMCA（施設管理者）や熊本大学の方々と自主運営に関するルールづくりを行いました。約200世帯の避難所を6つの班に分け、「班長」「食事係」「ゴミ係」「清掃係」「物資・健康係」と担当を決め、住民自身が運営していけるよう、避難所のレイアウト、係決めのワークショップなどのお手伝いをしました。また、NPO法人災害ボランティアネット九州支部「てらもん」さんらとの連携のもと、集いの場や役割づくりのために、サロンや物づくりのプログラムも実施しました。10月31日の閉鎖まで、在宅や仮設住宅移行時にお手伝いや相談が必要な方については、町や熊本YMCAと連携し、個別支援をお手伝いしました。

●集落支援　陶器市＆RSY カフェの開催

愛知県瀬戸市「陶磁器卸業協同組合」様、岐阜県瑞浪市陶町様から食器類をご提供頂き、陶器市を開催しました。陶器市は、地震で割れてしまった食器の調達はもちろんのこと、近所の方との再会や、ゆっくり語り合える場としても活用されています。気兼ねなく気に入ったものを持ち帰れるよう配慮し、陶器は１つ 10 円程度で販売しました。売り上げは全て御船町社協に寄付しています。買い物をする楽しみや気分転換にも繋がっているようで、大変喜ばれています。陶器市は大変好評だったため応急仮設住宅でも開催しました。

交流会の開催（上野地区・高木地区）

南田代公民館のある上野地区は、山間部で家屋倒壊も少なく、外部からの支援はあまり入っていない地域でした。しかし、家屋内や農地被害はひどく、「支援から取り残されているように感じる」という声を聞きました。一方で、高木地区は倒壊家屋が集中していました。そこで、RSY と繋がりのある音つむぎネットや NPO 法人災害ボランティアネット、真宗大谷派ボランティアの皆さんらとのサロン活動や食事会をきっかけに交流を深めました。「今度はいつ来ると？」と住民の方々も次の新たな出会いや再会を楽しみにしています。

車座トーク「これからの生活再建を考えるミニ相談会」

今後の生活再建に向けて不安を抱える住民の声をもとに、日本災害復興学会の協力のもと「車座トーク」を開催しました。学会より、過去の災害を事例から応急危険度判定、り災証明、今後受けられる支援制度などについて解説いただき不安軽減に繋がりました。また、2004 年新潟県中越地震で家屋全壊、田んぼの被害を受けた田麦山の渡辺裕伸さんをゲストに迎え、応急仮設住宅の住まい方や生活再建に向けた取り組みの事例を教えて頂きました。車座トークは計 5 回実施、約 100 名が参加しました。

●応急仮設住宅支援　仮設での暮らし方の伝授

応急仮設住宅での暮らしに大きな不安を抱える被災者に向け、町主催の仮設住宅入居者説明会で、「仮設の住まい方、暮らし方」を紹介。過去の災害の事例を元に、狭い空間を有効活用したレイアウトや収納の選び方などを具体的に伝授。新潟県中越地震や東日本大震災の被災者からの「引きこもらずになるべく外に出ること」「近所づきあいを大切に」というメッセージを伝えると、熱心にうなずく姿が印象的でした。なお、2016 年 11 月中旬までに、21 箇所・425 戸の仮設住宅が建設されました。

あったか味噌汁プロジェクト

応急仮設住宅にお住まいの皆さんに、真心がいっぱいつまった味噌汁椀と箸のセットを届ける「あったか味噌汁プロジェクト」。仮設住宅での孤独死や健康被害、熊本地震の風化防止を目的としています。受け取った住民からは、「昨日さっそくこれで味噌汁を食べました」「遠くから気にかけてくれることが本当に嬉しい」と、満面の笑顔と喜びの声が聞かれています。お椀とお箸は全て全国からの寄付によるもので、ラッピング作業は愛知のボランティアさんが担ってくれました。集会場や談話室が開放される時期を見計らって、熊本の郷土料理「だご汁」昼食会を開催。プレゼントしたお椀とお箸を家から持参して、みんなで楽しく調理しました。「今度部屋に遊びにいくたい！」と、次の約束をする方もいて、新たな人との関わりを育くむきっかけにもなっています。皆さんのご協力で、1,026 人の方にお渡しすることができました。

集会場・談話室の整備

町の仮設住宅には、1 箇所の集会場（50 戸に 1 つ）と 10 箇所の談話室（20 戸に 1 つ）が建設されましたが、災害救助法で提供されるのは建物のみで、備品は準備されていませんでした。そこで、RSY への寄付金や NPO 法人マンパワー・カフェ、生活協同組合連合会アイチョイス様のご協力により、テーブル・椅子・お茶のみセット、簡易調理セット、掛け時計、テレビ台、モノづくりのための工具などを提供。靴箱づくりや食事会など、住民が集える場づくりプログラムのために使われています。

足湯＆RSY カフェ

仮設住宅入居後も根強い人気の足湯。東日本大震災でも活躍した、「どこでも足湯隊」や「神戸大学足湯隊」などが、住民の足と心を温めました。足湯を通して、震災直後の様子や健康状態、家族や隣近所のことなど、どんどん言葉が溢れ出てきます。行政や専門家の対応が必要なケースはすぐに繋ぎ、そうでなければただひたすら、皆さんの話に耳を傾けます。「久しぶりに話せてすっきりしたたい」「また来てね」など、次を楽しみに待つ言葉が、随所で聞かれました。

郷土料理・名物おやつ交流会

福島や名古屋の学生さんたちが、郷土料理を一緒に作って食べる交流会を開催しました。名古屋からは「ういろう」、福島からは「こづゆ（汁物）」というレシピと共に紹介。住民の皆さんも興味津々で一緒に作って下さいました。学生さんたちの中には、「今度は熊本の料理を教えて下さい」と次の約束を取り付ける人も。一つの出会いが、土地への興味と互いへの関わりをより一層深めてくれました。

建築士による住宅修繕相談会

過去の災害では、家主が家の解体や修繕などについて正しい判断ができず、解体する必要がない家屋を解体してしまったり、悪徳業者に騙されて、多額の費用を請求されるなどのトラブルが数多くありました。（株）サイドサポートサービス「おうちの相談屋本舗」主宰の中原弘之氏を招き、4 箇所で相談会を開くと共に、実際に建物を見てアドバイスをする個別訪問も行いました。住民からは「再建に向けてすべきことがはっきりした」と、安心した表情が見られました。

復興祭りへの支援

町民が主体となり、復興祭り「感動祭」が開催されました。RSY は、事前準備や広報などを支援しました。当日は各地から 2,000 名を越す人々が来町し、御船川河川敷にて、よさこいを披露するなど、大いに盛り上がりました。

地元ボランティア団体への支援

2007 年 3 月 25 日・能登半島地震で震度 6 強の被害を受けた穴水町より 5 名が訪問し、手作りのベビードレス型手拭タオル「ホットちゃん」400 枚を届けて下さいました。また、旧七滝・高木仮設団地の談話室での交流会や、木倉・田代東部地区の地区社協の方々を対象にした勉強会にも参加頂きました。住民の中には、ホットちゃんを手にした瞬間、込められたまごころを感じて涙を見せる方も。「過去の経験を聞くことで、改めて地域が頑張らなくてはと力が湧いた」というコメントが寄せられ、被災地と被災地を繋ぐ心の絆も深まりました。

町・社協・地元関係機関との情報共有

町の総務課・福祉課、地域支えあいセンター（社協）、熊本 YMCA、熊本大学、くまもと健康支援研究所らと共に、2 週間に 1 回程度の「支援担当者会議」に参加し、避難所や仮設住宅入居者の個別支援計画づくりや課題の共有、支援プログラムの検討を行っていました。

RSY 御船事務所「かたらんな交流館」の運営

7 月 5 日～12 月末まで、RSY の御船事務所として、「かたらんな交流館」を設置しました。「かたらんな」とは、地元の方言で、『一緒に』とか『語る』という意味合いがあります。中西朝子さん、浦中武信さんの 2 名を常駐スタッフに迎え、被災者とボランティアの出会いや交流の場所として活用されました。かたらんな交流館の運営とスタッフの常駐は 2016 年 12 月末で終了しました。

ボランティアバスの運行

「地震の影響で夏祭りも中止になってしまった。何も楽しめるものがない」「こんな時こそ元気の出ることをやりたい」という住民さんの声を受け、熊本 YMCA や山間部の自治会の方々と準備を進めてきた夏祭りが 7 月 20、21 日に開催されました。RSY は「夏祭り応援交流ボランティアバス」を運行し、名古屋から 30 名のボランティアが活動しました。RSY は陶器市、輪投げ、釣りぼり、たませんブースの運営や、住民企画の流し素麺のサポート等を行い、どのブースも常に賑わっており、袋一杯の陶器を購入された方、たませんや素麺に舌鼓を打つ方、輪投げ、釣りぼりを楽しむ姿が多くみられました。

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）

支援の抜け、落ち、漏れ、ムラや重複を防ぎ、地域のニーズにあった支援活動を促進するため、熊本県内の支援団体・被災地全般の情報集約・調整機能を果たすべく現地で活動。県総合福祉センター内に本部を構え(8 月までは県庁内)、事務局は JVOAD(ピースボートボランティア・RSY を含む)と地元の中間支援 NPO・NPO くまもとで共同運営しています。週一回、支援団体を集めた「火の国会議」、行政・社協と「連携会議」を開催。情報共有と次の支援に向けた調整を行い、その後は、くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）に引継ぎました。

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援Ｐ）

避難所から応急仮設住宅やみなし仮設住宅等へ引っ越した一人ひとりに、暮らしの状況についてお聞きするコミュニケーションツールとして、「うるうるパック」をお届けしました。

RSY 大口町倉庫を拠点とし、名古屋のボランティアだけでなく、大口町で活動している団体「災害救援ボランティア」の協力もあり、延べ 94 名がパック化作業に参加。3050 パックを作成し、御船町を始めとした、7 市町村にお届けしました。

震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）

震つなでは、熊本県内で活動する支援団体や、地元自治体、地域支え合いセンター、住民に向けて、「情報交換会」や「復興寺子屋」を開催しています。RSY が現在も支援を続けている宮城県七ヶ浜町からは、元仮設住宅代表世話人の星仁さんを招いて、仮設での自治会運営やコミュニティの作り方についてお話頂きました。また、親子向けには、新潟県中越地震で被災経験のある長岡市のママたちとの交流を深め、不安の共有や励ましの機会となりました。

浄土真宗大谷派「光楽寺」様の協力

RSY 会員で真宗大谷派「光楽寺」のご住職、大津山様のご好意で、4 月 20 日から 5 月 1 日まで、本堂を宿泊所として開放頂きました。幸い、ライフラインの復旧が早かったことから、お風呂の世話や、ゴミの処理、物資の保管・車の駐車スペースの提供など、一手に引き受けてくださり、安全で快適な宿泊空間が確保できました。ご住職、ご家族の協力なくして、これほど早く、現地での活動を展開することはできませんでした。この場をお借りして心からお礼申し上げます。5 月 4 日、感謝の気持ちを込めて、ご住職と一緒にお寺の周辺地域の方々に炊き出しを振舞いました。

車中泊用簡易ベッド「ねむれーる」開発者でもある大津山量住職

2017 年度　支援活動

被災した小規模高齢農家の支援

RSY は生活協同組合連合会アイチョイス様のご協力で、上野地区で被災した高齢・小規模の農家の米の販売を支援しています。Y さん夫妻は共に 80 代半ば。震災の年は作付けできず収入もゼロでした。

被災した田んぼの修繕を経て、2017 年にようやく収穫できたものの、米を保管する倉庫の修繕は間に合わず保管に困っていました。そこで米が傷む前に 360 キロの米をアイチョイス様が買取り、「復興米」として販売。アイチョイス会員の約 100 名が購入しました。跡継ぎのいない小規模・高齢農家を支えると共に、「復興米」を通じて愛知との新たな交流が生まれつつあります。今後は周辺地域の農家の被災状況も調査し、支援の継続・拡大を検討していきます。

Y さんの農地

Y さん夫妻

被災した製茶工場の支援

上野地区にある製茶工場「黒田製茶」は、震災で自宅と工場が大規模被害を受け、震災の年の売り上げは、例年の 20 分の 1 まで落ち込みました。全盛期、御船町には 14～15 軒の製茶工場があり、うち、茶葉の菜園・製造・販売までを手がけているのはたった 2 軒。その 1 つが「黒田製茶」でした。5 箇所あった茶園は、亀裂や水路の被害が酷く、全て手放しました。一時は再建をあきらめかけましたが、「御船の産業を守りたい。私たちにはこの仕事しかない」と奮起し、残った機械で事業を継続。RSY はチラシを作成し、商品販売の斡旋に協力しています。店主の黒田さんからは「RSY を通じて私たちのことを知ってくださり、少量でも継続的に買ってくださる方もいる。今は販売のみに規模は縮小しましたが、皆さんの応援にこたえるために最後まで頑張りたい。」と意気込みを聞かせて下さいました。

被害のあった茶園と製茶工場内部

今も営業を続ける販売所

高木地区　離散した住民の集いの場づくり支援

御船町地域支え合いセンターと連携のもと、震災後に離散した高木地区住民の集いの場を支援しようと、「高木ふれあい祭り」の企画運営をサポート。住民約 300 名が再会を喜びました。RSY は陶器市を担当し、愛知県瀬戸市「陶磁器卸商業協同組合」様、岐阜県瑞浪市陶町の事業主様からご支援頂いた、茶碗や湯呑みなど 1 つ 10 円で販売。「そういえば湯呑みがなかったね。ようやく落ち着いて家のものがそろえられる」とじっくり選ばれる方、「ばあばにあげるの」と気に入った柄のものを嬉しそうに買っていった小学生など、多くの方にご利用いただき、震災後 1 年半経っても陶器の提供は喜ばれることを実感しました。震災後に住まいの離散や被害の差が影響し、互いを気遣うあまり、住民同士で気持ちのすれ違いが起きやすくなることは、これまでの災害でも聞かれています。そんな中、お祭りや陶器市は、地域の繋がりを実感し、気兼ねなく楽しいおしゃべりができる場になったようです。

＝参加者の声＝

・セットの食器はみんな 1 個とか 2 個残して割れてしまったから、これで揃った～。

・部屋のキズやヒビは直せずそのままで、家具で隠している。心のキズもね…。

・うちのあたりは全然被害なくて。でも震災の時は水がでなかったから、毎日職場にペットボトルもって水汲んで帰ってたわ。

・仮設内での交流がなかなかできない。だから今日みたいなのは嬉しい。

・自宅は一部損壊。家が残ってよかった～って思った反面、親しい人の家は全壊してることも多くて。なんて声をかけていいか分からなかった。ひけめっていうか、申し訳なさで下を向いて歩く思いだった。でも今日は思い切って来てみてよかった。

まつりを通じて地域の絆を再確認

おしゃべりしながらじっくり選定

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援Ｐ）

昨年度に引き続き、避難所から応急仮設住宅やみなし仮設住宅等へ転居した方々に、その後の暮らしの様子や困り事をお聞きするためのコミュニケーションツール「うるうるパック」をお届けしました。

パック化作業には、大口町災害救援ボランティアの皆様と RSY ボランティア延べ 95 名が参加。6,200 パックを作成し、御船町を始めとした 9 市町村にお届けしました。

大口倉庫でのパック化作業の様子

みふね・ぎふ・あいち小学生交流ツアー

2017 年 8 月と 2018 年 2 月の 2 回にわたり、御船町立滝尾小学校、岐阜市立本荘小学校、名古屋市立東山小学校の小学生が互いの町を訪問。震災をきっかけに生まれた出会いが、「遠く離れていても、いざという時には心配し合い、支えあえる心の絆」に育っていくことを願って、自然体験や震災への備えを学ぶ交流ツアーを開催しました。

きっかけ

震災後に通学路が寸断され、10 ヶ月間も中学校を間借りして授業を受けていた御船町滝尾小学校の子どもたち。RSY の紹介で岐阜市立本荘小学校と名古屋市立東山小学校学区の子どもたちが、応援メッセージや募金を届けたことから交流が始まりました。

第 1 弾　御船町編

日程：8 月 24 日（木）～8 月 26 日（土）の 2 泊 3 日
場所：熊本県上益城郡御船町
目的：御船町の子どもたちや集落の人々との交流を通じて、継続的に被災地との関わりを深めるきっかけをつくり、御船町の豊かな自然や震災体験から地元での防災・減災活動の大切さを学ぶ
行程：1 日目　滝尾小学校（顔合わせ・交流会）～服掛松キャンプ場（シェルターづくりなど）～みんなで夕食づくり（闇カレーづくり）
2 日目　川遊び@御船川～田代東部小学校（学童保育の子どもたち、地域の方々との交流）
3 日目　恐竜博物館～帰路へ
参加：岐阜市立本荘小学校　児童 5 名、教員 2 名
名古屋市東山小学校　児童 5 名、保護者 1 名
御船町立滝尾小学校　児童 11 名、教員 3 名
上野地区　田代東部小学校 学童の子どもたち、地域の皆さま
協力：NPO 法人みずのとらベル隊

出会い～滝尾小学校訪問

手を振って出迎えてくれたのは、滝尾小 5 年生の 11 人。小学校混合の班に分かれて、レクリエーションや校内見学を行いました。校内見学では、これまで支援を受けた地域のマップや、震災関連新聞記事の掲示コーナー、そして募金で整えられた図書室の椅子や、教室に飾られた応援メッセージを見せてくれました。本荘小・東山学区の子どもたちは、自分達の取組みが被災地で役立っていることを実感した様子でした。

滝尾小校内を散策

レクリエーションで一気に仲良しに！

Let’ｓキャンプ！～服掛松キャンプ場

熊本の大自然に囲まれて、シェルターづくりやロープワーク、火起こしを体験。みんなで力を合わせて自然の中にあるものを上手に活用する知恵と技術を身につけました。企画・運営に協力頂いた「NPO 法人みずのとらベル隊」加藤さんの熊本地震体験談や、「人間の体温を保つための家」「生きるために欠かせない水」「暗いところで明かりとなり気持ちを落ち着かせ、元気にしてくれる火」の３つが、生きるためにいかに大切かというお話は、子ども達の心に深く残ったようでした。夕食は「闇カレー」。苦労しながらも、買い物、調理、配膳は全て自分達で行い、充実感一杯の表情を見せてくれました。

みんなの町の魅力を知る～キャンプファイヤー

キャンプファイヤーの明かりの中、それぞれ自分の町の魅力を発表しました。滝尾小学校は熊本弁を交えて町の自慢や見所を、本荘小学校と東山学区の子どもたちは、手作りポスターで学校の様子や観光スポットを紹介してくれました。途中、岐阜県公式キャラクターミナモのミナモダンスを一緒に踊ったり、滝尾小の子ども達から「東山動物園のシャバーニに会いたい！」という声も聞かれて大いに盛り上がりました。その後は花火大会と星空鑑賞。みんなでねっころがって「星でっかい！」「名古屋ではこんなに沢山見えない」などと言い合いながら、出会いの喜びをかみしめました。

川は楽しい！川は怖い！～御船川

御船川は町の自慢のひとつ。普段穏やかな川でも時には脅威にもなりうることを教わり、おぼれた時に安全に陸へ戻る方法、また川で溺れた人を助ける方法を学びました。途中、この地方特有のスコールのような豪雨の洗礼をうけつつも、子ども達は元気一杯！御船町の豊かな自然に触れる体験ができました。

その後は滝尾小の上田校長先生と一緒に町歩き。御船町の復興の様子についてお話し下さいました。

この奥に仮設住宅がありました

ふるさとの味をいただく～上野地区　学童訪問・地域との交流

滝尾小と別れ、今度は上野地区へ。学童保育の子どもたちや地区の方々と交流しました。名古屋チームが鬼まんじゅうと小倉トースト、岐阜チームは五平餅をつくり、地区の方々からは山の恵がつまった御船の郷土料理をごちそうになりました。また地区住民の M さんから、震災当時、近所の人と手を取り合って乗り越えたことや、普段作っている保存食が役立ったことを教えていただきました。

町の自慢～恐竜博物館

御船町自慢の恐竜博物館へ。展示を見てまわり、ストラップ作りも体験しました。そこではなんと、お別れしたはずの滝尾小の３人がみんなへのお手紙をもって会いにきてくれました。みんなでストラップに名前を書きあい、思い出あふれるストラップが完成。「今度は家族と御船に来る」「次は僕たちが行きたい！」とお互いの想いを伝え合い、再会を約束してお別れしました。

お別れ～阿蘇くまもと空港

阿蘇くまもと空港へ滝尾小学校の上田校長先生がお見送りに来てくれました。本荘の子どもたちは３日間で感じた御船町のいいところを、東山の子どもたちはこのツアーの感想と感謝の言葉を発表し、たくさんの出会いと気付きのあった３日間を締めくくりました。

本庄小学校「御船町のいいところ10個」

1．みんな明るかったこと、2．男女関係なく仲がよかったこと、3.自然が多いこと、
4．星がきれいだったこと(あんなにきれいな星は見たことがなかったのでとても感動しました)、
5．地域の人がとても優しいこと（私たちのためにはやくから夕食を作ってくださったということを聞いてとても嬉しかったです。その地域ならではの生きる知恵も聞くことが出来ました)、
6．空気が美味しいこと、7．熊本県の美味しい郷土料理のこと、
8．野菜が大きかったこと、9．恐竜博物館のこと、
10. 熊本の皆さんは地震を経験しているのに、元の生活を取り戻すために前向きに生きているところが凄いと思いました。

東山小学校「感謝のことば」

今回は熊本に呼んでくださって、ありがとうございました。名古屋では出来ない経験が出来てとても楽しかったです。滝尾小についたとき、皆さんが快く迎えてくださってとても嬉しかったです。キャンプ場では校長先生、教頭先生、那須先生が全力で手伝ってくれてとても助かりました。キャンプファイヤーでは方言クイズがとても楽しかったです。今日は忙しい中来てくれてありがとうございました。僕たちは熊本での経験などをなごやっ子に教えて広めていきたいです。

第２弾　岐阜・愛知編

日程：2 月 9 日（金）～2 月 10 日（土）の 1 泊 2 日
場所：岐阜県岐阜市、愛知県名古屋市
目的：継続的な交流企画を通じて互いが暮らす町にも関心を持ち、子ども達同士の心の絆を一層深める
　　岐阜・名古屋の防災活動を学び、今後地元の防災・減災対策に活かしていくきっかけを作る

行程：1 日目　本荘小学校（体験発表、交流会）～鵜飼ミュージアム～御菓子司玉井屋本舗
　　2 日目　東山動植物園（動物園見学、昼食会）～名古屋大学減災館

参加：御船町立滝尾小学校　児童 11 名、保護者 1 名、教員 3 名
　　岐阜市立本荘小学校　児童 5 名他
　　名古屋市東山学区　　東山小児童 2 名、区政協力委員長、保護者 2 名他

体験発表・交流会～本荘小学校

滝尾小学校の子どもたちが、本荘小学校の 4～6 年生に向けて御船町の紹介と震災体験について発表を行いました。緊張した面持ちながら堂々と伝える姿に、子どもも大人もみな真剣に耳を傾けていました。「パニックになってだんごむしのポーズをとれなかった。」「地震のときは真っ暗で懐中電灯があってよかった」など、一人ひとりが震災当時を振り返り、自らの経験を教訓として本荘小学校の子どもたちに伝えました。当時と向き合い、それをまっすぐに伝える姿、そしてその生の声は何よりも心に響くものであったのではないでしょうか。

発表後には、校内見学や防災すごろく、なわとびやドッジボールで交流。なわとびでは、本荘小学校が高速８の字を披露し、滝尾の子どもたちは圧倒されつつも、一緒に楽しみました。

発表を聞いて

・思い出すだけでも辛いと思うのに、その時の様子やこうしておいた方がよいということを発表してくれたことで、普段の避難訓練をしっかりやれば命が守れるということを知ることができた

・いつ、どんなことが起こるかわからないから、ちゃんと地震が起きてもすぐ、逃げることができるようにしたほうがいいと思った

・みんなにこれからの生活で地震にあった際のアドバイスをしてくれて、とても勉強になった。具体的には、すぐに机の下に隠れて身を守ること、寝ていたら布団をかぶって身を守ること、何よりも自分の命を守ることが勉強になった

ぎふを知る～長良川うかいミュージアム・登り鮎

長良川うかいミュージアムと鮎菓子の御菓子司玉井屋本舗を訪れました。鵜飼と鮎菓子は一度目のツアーで紹介されていた岐阜の自慢。特に、玉井屋本舗への訪問は「鮎菓子を食べて欲しい！」という本荘小の５人たっての希望で実現しました。登り鮎・お茶菓子とあわせて点てたお抹茶もいただき、子どもたちは初めてのことに戸惑いつつも、おいしくいただいていました。

ひとこと 岐阜のいいところである鵜飼いとあゆ菓子などのおもてなしもできてよかった
お土産にあゆ菓子や岐阜限定のお菓子、ストラップなどを買っている子がいて岐阜がいいところだと思っているように見えてうれしかった　（本荘小６年生）

なごやを知る～東山動植物園

今回のツアーでみんなが楽しみにしていた東山動物園。子どもたちはシャバーニとケイジをはじめとする動物たちに会えるのを今か今かと待ちわびていました。ここからは東山学区の皆さんとも合流。かわいい動物や珍しい動物たちに目移りしながら、笑顔いっぱいで元気に園内を周っていました。シャバーニを見たときは子供たちから驚きの声をあげ、ケイジ君の鳴き声を聞いたときは笑い声が響いて、常に笑顔や子供たちの元気な声が絶えず、心から楽しんでいる様子が伺えました。

スカイタワーでは、東山のみなさんとの交流会。体験発表のあとはバイキングを楽しみました！

最先端の防災を知る～名古屋大学減災館

飛田先生の案内のもと、最先端の技術がつまった施設の見学をしながら、地震の揺れ、建物、液状化、津波などについて説明をいただきました。子どもたちは、超高層階の揺れが再現できる装置や液状化がわかるボトルなど見るものすべてに興味津々。大人でも理解するのが難しい話もあるなかで、一生懸命メモを取りながら先生のお話に耳を傾けていました。また、熊本地震が起きた時間帯に、いつどこでどれくらいの強さの地震が起きていたか地図に表示されるモニタもあり、真剣な表情で見つめていたのは印象的でした。

いつもの波と津波はどう違う？

このボトルを揺らすと・・・？

熊本周辺に大小様々な揺れが
繰り返し襲っていたことがわかります

ツアーを終えて～参加者の声

「たくさんの人とこれからも交流して仲良くなりたいと思った」（滝尾小児童）

「交流会の時に、本荘小と東山小の児童の人たちもしっかり発表を聞いてくれてうれしかった」（滝尾小児童）

「ツアーなどで交流してぎふ、あいちのことについてもっと教えてほしい。熊本についてもはなしたい」（滝尾小児童）

「みふねの子供たちは地震で辛い思いをしていると思うのに、学校で元気よく発表してくれて、すごいと思った。
みんな全然変わっていなくて、明るくしゃべりかけてくれて、うれしかった」（本荘小児童）

「前回のツアーは私たちが学びに行く番だったが、今回は熊本の子が岐阜や名古屋に来てくれたので、
より一層交流の輪が広がったと感じた」（本荘小児童）

「御船の人たちや東山の子たちと交流してみて、実際に支援のことをどう思っているか、
他の学校はどんな支援をしているかといった疑問の答えが知れたので良かった」（本荘小児童）

「最初は初対面であまり話せなかったけど、2回の交流ツアーのおかげであまり知らない人ともなかよくなれてよかった」（東山小児童）

「子どもたちにとっては人と人のつながりの大切さを学んだだけでなく、発表のために自分の被災体験を整理できたことはとても大きかったと思います」（滝尾小教員）

「今回の交流を通して、防災についての意識をさらに高めるとともに、自分たちが熊本地震で経験したこと、考えたことを振り返ることが出来ました」（滝尾小教員）

「本荘小の防災の取り組みや、廊下に高々と積んである雑巾の数に圧倒され、こんなにも被災した人々のことを考え、支援してくれる人たちがいるということを改めて感じることが出来ました」（保護者）

おわりに

２回のツアーを通して、参加した子どもたち、そして私たちも多くのものに触れ、さまざまな気づきを得ることができました。「また会いたい」。ツアーを終えたとき、たくさん聞こえた言葉です。何かあったときに「あの子は大丈夫かな？」と思いやれるつながり。その一端を築けたことは、このツアーの大きな成果となりました。

今回ツアーの開催にご理解いただきご協力いただきました、滝尾小学校、本荘小学校の先生方、保護者の皆さま、そして東山学区の皆さまに心より御礼申し上げます。

なお、この２度の小学生交流ツアーは、赤い羽根共同募金「ボラサポ・九州」助成、ならびに生活協同組合連合会アイチョイス様からの寄付とフジドリームエアラインズ様のご協力により実現いたしました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

2018 年度　支援活動

七滝復興祭　運営サポート

6 月 24 日（日）に旧御船町立七滝小学校で「七滝復興祭」が開催され、RSY からボランティア 4 名（大人 2 名、愛知淑徳大学の学生 2 名）が参加しました。

今回の活動では、『身近にあるもので作ろう！防災キラキラグッズ』をテーマに、子ども防災ブースにてポンチョと笛づくりを行いました。ポンチョは雨風をしのぐために、笛は助けを呼んだり、救助者を集める時に役立ちます。ゴミ袋や牛乳パックなどの身近な材料で作ることで、防災を楽しく学び、想像力を鍛えようというのがねらいでした。

また、移動手段がなく参加したくてもあきらめざるを得なかった仮設住宅の住民の方に送迎サービスも実施しました。「久しぶりに地区のみんなと会えて嬉しかった」とコメントして下さいました。

みふね・あいち交流ツアー

昨年に続き、2018 年 8 月と 2019 年 3 月の 2 回にわたり、御船町とつながりのある名古屋のボランティアが、南田代 1 区・2 区など御船町を訪問しました。

南田代 1 区・2 区は単身高齢者・高齢者世帯がほとんどで、今後の過疎化や地域コミュニティの衰退の課題が震災を機に加速しています。また仮設住宅にお住いの高齢者は地区に戻るきっかけや移動手段がなく、生活不活発病や孤立の心配がありました。そこで、地区の皆さんとの交流を続け、住民同士の集いの場を作るとともに、新たな交流人口の拡大と、東海地区に迫りくる「南海トラフ巨大地震」への備えを学ぶ機会とするため、今回の企画を実施しました。

きっかけ

2018 年 4 月に実施した RSY 熊本地震被災地支援活動報告会のワークショップにて、参加された皆さんから「みふね・あいち交流ツアー」について提案いただき、企画化しました。

御船町上野地区　南田代１区・２区の概要

・南田代 1 区・2 区は、上野地区の集落の一つで 37 世帯が居住（震災後に 5～6 世帯が地区外へ転居）

・震度 6 強の被害で、半壊や一部損壊の被害が多数でたものの、直後は集会場に集まり住民同士家にあるものを持ち寄るなどして急場をしのいだ地域力の高い地区でもある。

・特に田んぼは水路の被害が大きく、一部修繕されたものの、まだ水が引けない農家もある。37 世帯中、小規模農家 5～6 件が再建の目処が立っていない。いずれも高齢者世帯。震災の年、米の収入が一切なかったため、収入は年金のみで生活困窮ぎみであった。庭先で家庭菜園程度はやっているものの、自分たちが食べるだけなので、張り合いがない。仕事や生きがいが失われることで、認知症の進行が心配な方は多い。

・この地域は 800 年の歴史がある。足利時代に殿様がいて、火山の山だった吉無田に木倉地区から木を運んで尾根に水が流れるよう水路を作った。そこから豊かな水が引けたので、農業が盛んになった。大地にとって水は命。だからこそ、命の土地を大切にしたいと思う。この歴史は地区の誇りでもある。

御船町自然体験＆住民交流企画

日程：2018 年 8 月 18 日（土）～19 日（日）
場所：熊本県上益城郡御船町上野地区（南田代 1 区・2 区）
行程：1 日目 上野地区散策（吉無田水源・棚田・めがね橋・神社など見学）
～「わくわくドキドキ夏祭り」企画のお手伝い　～　3 グループに分かれ、民泊
2 日目 防災食育勉強会「御船の野菜や山菜で保存食を作ろう！」
～黒田製茶（震災で大規模半壊した製茶工場）～(有)くまもと有機の会（震災後被災を受けながらも地元農家を支援している農業関係者）の訪問～御船町恐竜博物館見学
参加者：生活協同組合連合会アイチョイス会員(7 名)、RSY ボランティア（4 名）
RSY スタッフ（3 名）
協力：南田代 1 区・2 区住民有志、御船町地域支えあいセンター、生活協同組合連合会アイチョイス、有限会社くまもと有機の会、NPO 法人バルビー、NPO 法人みるくらぶ、Project 九州

上野地区の散策

地元のガイドボランティアの倉本さんにご案内いただき、九十九トンネル→吉無田水源→水路→棚田の順に回りました。九十九トンネルは当時水不足に苦しむ人々のために、手作業で硬い岩盤をくり抜き作られた前長873メートルものトンネル。地震の影響で山の崩落により水路が塞がれたため、パイプを通すなど対策がなされているそうです。また吉無田水源から流れる水は地震直後も途絶えることなく、人々の命を支えていたそうです。自然は地震という過酷さも与えるが、反面優しさもあると感じる散策でした。

復旧工事後の崩落現場付近にて

吉無田水源へ

わくわくドキドキ夏祭り　運営サポート

震災後の地区の皆さん同士の再会と交流の場づくりを目的に開催した「わくわくドキドキ夏祭り」。住民の皆さんが主体となって、手作りのピザやお漬物、自慢のお米を炊いて作ったおにぎりなどが振舞われ、約 70 名が参加しました。地区でこのような集いの機会をつくるのは久しぶりということで、帰省中のお孫さんや仮設・みなし住宅からも参加して下さいました。ボランティアは 5 つのお楽しみブース（輪投げ・つかみどり・ガラポン抽選・ボールすくい・かき氷）を担当。夏休みで帰省中の小さなお子さんからお年寄り、更には出店者側までが夢中になって楽しみました。

ガラポンで特賞の大きなぬいぐるみを引き当てたお子さんが、その後も何度も何度もブースにやってきて、更に特賞を引き当てて大喜びしたり、狙った賞品を出来るだけたくさん掴み取ろうと奮闘したり、かき氷を食べながら夕焼けを眺めたりして、楽しい思い出作りにもなりました。そんな様子を、地区のお年寄りたちが温かく見守る姿が印象的でした。

また上野地区はお米だけでなく、美味しい野菜もたくさん採れます。この日の BBQ には立派なナスやとうもろこしもありました。子ども達は最初こそはモジモジしていたものの、だんだんと打ち解けて「とうもろこしが食べたい」と大人だらけの BBQ グリルに参戦。皆で美味しいものを食べる、というのは互いの距離を縮める近道のひとつであると感じました。ひとつひとつを取り上げると些細な出来事かもしれませんが、お祭りに来てくださった皆さんが、震災後に育まれた人のつながりや地域の絆を再確認し、多くの方々に「今日は来てよかったな」と思っていただけたのではないかと思います。

お祭りがお開きになった後の挨拶の場面では、ある住民の方が率先してボランティアに握手やハグを求めに来て下さいました、おかげでボランティア側も、一人ひとりと握手を交わし、直接目を見てお礼を言うことができました。区長からは、「今回も遠くからわざわざおいで頂き、私たちを忘れずにいてくれて本当に嬉しかった。皆さんとの交流を通じて、住民同士も久しぶりに集うことができた。少しずつ地区も元気を取り戻しつつある。引き続き応援して頂ければありがたい」というコメントを寄せて頂きました。

民泊

参加者は各グループに分かれ、3 世帯のお宅に宿泊させていただきました。それぞれのお宅で温かいおもてなしに心がゆったりした時間でした。豊かな食と安全な食が人間をつくることも改めて実感しました。自然の多い地域だからこそ温かい人たちが多く、故郷に帰ったような気分でした。

防災食育勉強会

今回は上野地区民生委員でもある、Mさんと、地区の女性たちに普段の暮らしの中で作られている保存食の調理方法や野菜の収穫について教えて頂きました。地元で収穫される野菜やそれを保存食にしたものは日常生活だけでなく、災害時にも安心して食べられるものとして活用できます。

前半は災害の食の在り方についてお話しいただき、上野地区の方々は自分たちの食べる物は自分たちで作り、余ったら分け合っていることや、「農業は人づくりから」という考え方を守るようにしていることをお話しいただきました。草取りや堆肥、鶏糞を作り丁寧に撒くようにする等、手間暇をかけないと人が安心できるものがつくられないことも学びました。また熊本地震の時には、やむなく除草剤を撒かなければならない状況に胸が痛んだそうです。

後半は収穫から調理まで、普段実践している調理方法をもとに解説と調理実習を体験しました。中でも竹の子の保存食とだご焼きは好評でした。竹の子は 3 月から 6 月まで収穫でき、孟宗竹は分厚く、食べ応えがありましました。だご焼きは地元で採れる小麦粉を使った郷土菓子で、もちもちとした食感と素朴な味ながら後を引く美味しさでした。調理で使用する調味料に関しても解説があり、その調味料の調理過程を思い浮かべながら選んでいるそうです。

その後、出来立ての食事を囲んだランチ&今後の交流について考える意見交換会をしました。今回勉強会の会場は M さんのご自宅の一部をカフェにした場所で、地元で採れた食材にこだわり、安心のできる食事をとれる場所となれるようにという願いが込められている場所です。地元の食材流通に関して、ツアー参加者のアイチョイス関係者からは「少量生産は土の検査など困難な面もあり、品質保証の観点から常時取り扱うのは難しいが、復興支援の一つとして販売を考える事ができるかもしれない」という意見もあり、今回のような交流を継続することで地区の復興に少しずつでも関わっていけたらと、前向きな意見も聞かれました。

黒田製茶

上野地区にある「黒田製茶」は熊本に来たら必ずと言っていいほど立ち寄る場所です。今回は短い時間でしたが、自慢の冷やし茶と奥さんが漬けた漬物を頂きながら、ご主人から事業や自宅の再建状況を伺いました。自宅・工場共に大規模半壊の被害を受け、現在は販売のみに事業を縮小し、細々と営業を続けていることや、無理がたたって体調を崩した時期があったことなどをお話し下さいました。お茶の試飲もさせて頂き、商品を思い思いに手に取り、購入しながら、ご夫妻のこれまでの頑張りを実感しました。

くまもと有機の会へ訪問

御船町小坂の「くまもと有機の会」専務取締役の田中誠さんに、地震当時のご自身をはじめとした地域の様子や、当時役立ったもの等をお話しいただきました。

（田中さんのお話）地震当時はお子さん２人を腕に抱え避難。その後、地域のお祭りなどで顔見知りだった高齢者の施設などへ若い世代を連れて救助に向かいました。外部支援を待つ必要はあるが、住民１人ひとりでできることをやらなければならないと感じていたことや、普段から住民同士のコミュニケーション基盤を形成していたことが災害時に活きたようです。事前にトイレが使えなくなることを知っていたので、穴を掘り、山に生えた竹を組んで、ブルーシートで覆った即席トイレを設置。しゃがむ動作が難しい高齢者には優先的に施設のトイレを利用できるようルール化しました。

今回紹介した内容は、田舎だからこそできる対応で、名古屋など都会はアスファルトが多いことを考えると、別の対策を考える必要があります。外部支援者の中には過去被災した経験をもつ人々も多く、自分も次にどこかで災害が起こったら恩返ししたいという気持ちを持っています。

御船町恐竜博物館

年間１７万人が訪れる御船町最大の人気のスポット。見学時間の１時間で網羅するには難しいほど、見ごたえのある博物館でした。年代別の化石の展示はもちろん、博物館独自で集めてきた化石の収集と研究から得られた情報に基づいた展示や博物館の活動も紹介されています。

ツアーを終えて～参加者の声

・上野地区は高原でありながら、水田に囲まれています。これは吉無田水源、八勢川、矢形川、井手のおかげで、住民の皆さんが誇りに思っていることに強い郷土愛を感じました。住んでみたいと思わせる温かさが沁みました。また復興のため地元の得意なところを活かそうとするところも勉強になりました。

・土砂崩れの現場を実際に見て、被害の大きさに驚きました。場所によっては手をつけたくとも、すぐには対応できず、元通りになるまでまだまだ相当な時間を要することも知りました。御船の方々との交流は地域のつながりの大切さを教えてもらいました。自分たちの生活は自分たちで守っていくという地域の繋がりというものを強く感じました。決して保守的な考えではなく、地域を守りつつも外部との交流も視野に入れているMさんのような方がいることに感銘を受けました。

・ガイドボランティアデビューだったKさんに案内していただきながら、大きく崩れた崖、復旧工事中の道路、ブルーシートがかかったままの家屋、至る所で地震の傷跡が見えました。自然豊かな今の御船があるのは先人たちが、田畑を潤す水勢を生むための多大な努力があったことを学びました。

・乾燥野菜など使ったお料理や梅干しなど昔ながらの保存食についてあまり意識したことがありませんでした。災害時には役立つ食材だとわかり、見直したいと思いました。

・2年前、昨年、今回と訪問するたびに復旧が進んでいることを実感しますが、地震による心の傷や変わってしまった暮らし、様々な不安がまだまだ残っているのだと感じました。今回の交流を通じ、復興へ進む一助として、人と人との交流が必要だと実感しました。

今後の御船の復興のために、組織や団体、個人として出来る応援

・「御船の今」を知ることと発信すること、被災地というのは決して可哀想なだけの場所ではない、ということを知ってもらうことが案外大事だと思います。「楽しそう、おもしろそう」と思ってくれる人を増やすことで「行ってみようかな」という人が増えると良いなと思います。とりあえず今回のレポートを社内で共有したいと思います。また、地域の人々の「やりたい」を後押ししたり手伝うことも、出来る限りやっていきたいです。棚田の後継者がいないということですが、子どもたちの農業体験や貸し田んぼ、週末農家育成事業などができると面白いなと思います。

・私には経験も知識も足りませんが、唯一若さが強み。定期的に御船町を訪れて、被災された方々に寄り添い、少しでも傷ついた心の支えになりたいと思いました。大学のサークルのメンバーを熊本へ連れていきたいです。訪れた時には美味しい野菜を買って応援したいです。また熊本地震があったことを忘れないために、学校でも今回のツアーで得た情報を伝えていきたいと思います。

・また必ず御船に行きたいと思います。次回は少しゆっくりできるように時間を作っていこうと思います。職場のみんなにも旅行先に御船町が追加できるようアピールしたいと思います。

復興古閑（こが）の迫寅舞（さことらまい）150 周年記念祭サポート

NPO 法人バルビーや御船町支え合いセンターを通じ、「復興古閑迫虎舞保存会 150 周年記念祭」の交流会にて、きらきら防災グッズコーナーを担当し、お祭りを盛り上げました。名古屋から RSY スタッフとボランティアの 3 名が参加し、牛乳パックやゴミ袋を活用した防災笛・ポンチョを、約 25 名の子ども達と一緒に作りました。参加者の中には「今日作ったポンチョをランドセルに入れておけば安心だね。」「この間の七滝小学校（6 月）でも作ったから、作り方覚えたよ。今日は友達も一緒だよ」と自分で作った達成感を話しながら、子ども達それぞれの防災の学びに繋がったようです。何より子どもも大人も楽しめる集いの場づくりのお手伝いができました。

御船町住民交流企画
復興まつり参加・足湯交流会

8 月のツアーに引き続き、御船町で地元の支援団体を中心に「復興まつり」が開催されることになりました。「名古屋から、忘れていませんよ。応援していますよ」との気持ちを届けるため、きしめんブースと防災工作ブースをやりました。

翌日は、仮設住宅集会場で『足湯交流会』も実施しました。

日程：3 月 20 日（水）～22 日（金）
場所：熊本県上益城郡御船町
行程：1 日目　ヒアリング、復興まつり・足湯の打合せ＠御船町地域支え合いセンター→足湯会場の下見・チラシのポスティング→地域住民へのヒアリング＠こやごもり→現地視察＠黒田製茶など→復興まつりの打合せ＠南木倉仮設
2 日目　復興まつり出店（きしめん・きらきら工作・社協ブースサポート）～町内視察～足湯＠今城仮設・落合仮設
参加：RSY ボランティア 7 名、RSY スタッフ 2 名
協力：御船町地域支え合いセンター、NPO 法人バルビー、こやごもり、南木倉仮設住宅　住民有志、生活協同組合連合会アイチョイス

活動報告（地域イベントのサポート）

スタッフ・ボランティア合わせて 9 人が御船町を訪問し、3 月 21 日に御船町スポーツセンターで行われた「春の御船住民交流会」に参加しました。

前夜の土砂降りが朝になってやっと上がるという天気でしたが、10 以上のブースが並び、ステージでは、ソーラン節を披露するなど、なかなかのにぎわいでした。9 人は、120 食のきしめんをふるまうチームと御船ささえあいセンターのキラキラ防災グッズ作りをサポートするチームに分かれて「名古屋から御船を応援していますよ」とアピールしました。

活動報告（足湯交流会・ヒアリング他）

翌 22 日は、今城・落合仮設の二か所で足湯サロンを実施しました。「かたらんな館での陶器市で買い物した。あれは楽しかった」と思い出した方がありました。たいへんだった時期のことを懐かしく思い出していただけました。一方で、つぶやきの中には、「仮設の人とはあいさつ程度、おしゃべりはしてない」と孤独感をにじませる方もありました。

奇しくも 22 日に御船町では最初の復興公営住宅の開所式が行われ、2019 年度は仮設からの引っ越しが本格化します。この一年、仮設住民にとっては、期待と不安が入り混じる年になりそうです。

なお、20 日には、上野地区の M さんをお訪ねし、中山間地域では、震災を機に人口減少が加速しているという現実を踏まえつつ、それを逆手にとって、自然体験ツアーを企画したいなど前向きなお話もきけました。

ツアーを終えて～参加者の声

・私としてはとても良い経験が出来たと思っています。これからも今回のような活動に関わっていきたいです。

・被災当時は、飛行機の窓から見える景色は屋根にブルーシートだらけでしたが、今回は見られませんでした。仮設に残っている方が高齢者の方が多く。お金の問題、買い物の問題等色々課題がまだまだ残っているようです。現地の人にお会いして、まだまだ困っている人は沢山いるので弱い者の話を聞いて支援してほしいと言って見えました。

元に戻るのは、まだまだ先、でも皆さんの笑顔が沢山見られて嬉しかったです。復興住宅も東北に比べて綺麗になっておりましたが、買い物等不便かなと少し課題がある様に思いました。本当に、参加させて頂きありがとうございました。

七ヶ浜町と御船町の災害時相互支援に関する協定

10 月 15 日、「宮城県七ヶ浜町と熊本県御船町の災害時相互支援に関する協定」の締結式がとり行われました。七ヶ浜町は、東日本大震災で被災。RSY が直後から現在に至るまで継続的に支援に関わっています。震災直後、両町の面積や人口規模が似ていたことから、御船町がアドバイスを求め、七ヶ浜町職員を派遣。その時期と RSY スタッフが現地入りした時期が重なり、3 者連携のもと、支援体制を整えることができました。この日は、震つな主催「復興寺子屋 in 御船」も同時開催され、両町長から RSY の活動へ感謝の言葉を頂きました

認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

熊本地震　被災者支援

活動報告書

2016 年 4 月 15 日～2019 年 3 月 31 日までの報告

2019 年 3 月 31 日発行

認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード(RSY)

（名古屋事務所）

〒461-0001

名古屋市東区泉 1-13-34 名建協 2 階

tel　052-253-7550　　fax　052-253-7552

e-mail　info@rsy-nagoya.com

web　http://rsy-nagoya.com/

twitter　rescuestockyard

facebook　rsy.nagoya